

科目名	環境保全学		英文表記	Environmental Conservation		平成29年4月28日		
科目コード	4411							
教員名:井口 亮 技術職員名:渡邊謙太						修正		
対象学科/専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
生物資源工学科			4年	選	学修	2単位	講義	前期
科目目標 【MCC目標】	環境の保全に関する基礎的な生態学関連の内容(多様性、水域・陸域環境等)及び熱帯・亜熱帯の生態系の特徴と保全について理解し説明できることを目標とする。 II-E							
総合評価	定期試験(期末)の平均の50%+レポート50%で評価し、60%以上を合格とする。							
科目達成度目標	目標割合	科目達成度目標	達成度目標の評価方法	ルーブリック				
				理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限必要な到達レベル(可)	セルフチェック	
	40%	① 地球環境問題、生物多様性、保全を具体的に説明できる。	正しく説明できるかを定期試験及び発表資料・レポートで評価する。	環境保全の目的を理解し、実問題に対して適切な定性的、定量的手法を選択して実践することができる。	環境保全の目的を理解し、適切な定量的手法を選択して実践することができる。	環境保全の目的を理解し手法を説明できる。		
	30%	② 水域・陸域環境や沖縄周辺の生態系の現状を把握することができる。	正しく説明できるかを定期試験及び発表資料・レポートで評価する。	身近な環境保全関連問題の要点を理解し、評価手法を柔軟に選択して実践することができる。	身近な環境保全関連問題の要点を理解し、評価手法を選択することができる。	身近な環境保全関連問題の要点を説明できる。		
30%	③ 人為的な影響による生態系の攪乱や保全の手法について説明することができる。	正しく説明できるかを定期試験及び発表資料・レポートで評価する。	環境保全関連データの意味を理解し、定性的、定量的解析を柔軟に実践することができる。	環境保全関連データの意味を理解し定量的解析を実践することができる。	環境保全関連データの意味を説明できる。			
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	<本科教育目標> (3)専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する			
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合								
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック	
評価項目		50	0	50	0	100		
基礎的理解	①②③	40		20		60		
応用力(実践・専門・融合)	②	10		15		25		
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)						0		
主体的・継続的学修意欲	①			15		15		
授業概要、方針、履修上の注意	本授業では、自然環境の現状について学び、保全するための実際の応用例について学ぶ。毎回講義形式で進めながら環境保全についての問題解決能力を養成する。							
教科書・教材	教員自作プリント及びパワーポイントによるプレゼンテーション資料。							

